

地域の未来に関わる たまご育て

他人の孫を「たまご」っていうんだって。
やりがいを持って地域の子育てに関わっている
お二人にインタビューしてきました！



新潟市在住
脇本 和敬 さん
(70代)
孫はいません。娘と息子の子育てに積極的に関わった経験あり。

出会いで世界が広がった。

- きっかけ
退職後シニア研修に参加。子育て応援施設ドリームハウスに見学研修に行った際、子どもとふれあう姿を見たスタッフに声をかけられ、シニアボランティアとして参加することに。
- やりがい
期待して待っていてくれる人がある嬉しさ、人生まだまだ勉強！と思えることがやりがい。0歳から100歳近い人たちとの出会いがあり、仕事をしていた時より世界が広がりました。ボランティアは仕事ではないので、無理をし過ぎず、自分なりの関わり方で楽しく続けています。退職後、ゴルフなど趣味を楽しむ人も多いけど、遊びはたまにだから楽しいんじゃないかな？ 仕事をしていた頃と変わらない仲間や世界しか知らないなんてもったいない!! まだまだ人生長いんだから、子どもたちから刺激をもらい、自らも一緒に楽しめば、世界が広がるよ！
<子育て応援施設ドリームハウス／いいがたっ子☆スペースくろさき／ツインストリップカフェ／小学生放課後キッズランド／(運動推進員) デイサービス／地域の茶の間で活動中>



新潟市在住
奥山 優子 さん
(70代)
孫がいます。子どもに関わる塾の仕事経験あり。

元気をもらっています！

- きっかけ
ボランティアにもともと興味があり、退職のタイミングで子育て支援講座を受講し「スペースくろさき」を知りました。*スペースくろさき
- やりがい
若いお母さんたちとの会話や、エネルギーに満ち溢れた未来ある子どもたちから元気をもらえます。幅広い年齢のスタッフ仲間も増えました。自分の孫育ての自信になりましたし、孫育ての経験があるからお母さんたちに寄り添うこともできます。生活に張り合いがでて、若々しくいられます。体を動かすので、楽しく老化防止になっていますよ。
<いいがたっ子☆スペースくろさき／小学校で絵本の読み聞かせボランティアとして活動中>

「たまご育て」してみませんか？

閲覧板で
まめに情報
チェック！

子ども食堂で、子ども
たちと一緒にご飯を
食べるところから
スタート

西区社会福祉協議会の
ボランティア・市民活動セ
ンターに問い合わせる
TEL.025-211-1630

おじいちゃん、おばあちゃん だからこそ伝えられること

NPO法人ファザーリング・ジャパン理事
NPO法人孫育て・ニッポン理事

村上 誠



自己肯定感を高める子育て孫育て

子どもの自己肯定感を育むには、他の子と比べたり結果で評価せず、ありのままを受け入れてあげることが大切です。無条件に愛情を注げるのはじいじ・ばあばの特権。「自分は価値のある存在だ」「自分は必要とされている」と肯定できるようにいっぱい可愛がってあげましょう。
子育てに自信を持たず仕事との両立に悩むパパママにも寄り添ってあげてください。褒める育児をしたくても自身が褒められた経験に乏しいパパママたち。今どきの子育てや働き方を否定せず、親として子育ての先輩として認めて、頑張りを褒めてあげて。パパママの自己肯定感が高くなれば、孫にもいい影響があります。

孫と一緒に五感を刺激する体験を

テレビやスマホ、ゲームといったデジタル漬けの今どきの子どもたち。じいじ・ばあばはアナログで五感に刺激を与える関わりを心がけて。孫のペースにあわせて一緒にのんびりお散歩して、道端に咲く花や虫を観察したり、

●プロフィール

村上 誠

3世代同居、2児の父。実母の介護を機にワーク・ライフ・バランスを見直し、育児と介護のダブルケア、妻の産後職場復帰・両立・キャリア支援のため兼業主夫となる。父親の育児・家事参画、夫婦関係、孫育て、地域での子育て支援など幅広い家族・育児テーマを取り扱い、全国で講演活動やイベントに出演。



土いじりや自然体験もいいですね。コマ回し・竹馬・お手玉など手先の感覚や体幹を使った昔遊び・伝承あそびを童心に返って一緒に楽しみましょう。将棋・囲碁・かるたなど昔取った杵柄を披露するもよし、日本の文化や伝統を次世代に伝えて下さい。

孫の心を育くみ、夢を応援！

昔ばなしの登場人物はお爺さんお婆さんが多いですね。その大きな理由は、親が働きに出ている間に祖父母が孫の世話をしてお話を聞かせていたから。自分に近い目線の話が好まれて伝承されてきたのです。昔ばなしに書かれているのは善悪や道徳、礼節などが主なテーマ。お話の主人公はお爺さんお婆さんのもとですくすく育てて大志を抱き、世に出て活躍をします。今どきのじいじ・ばあばも孫の心の成長に関わり、孫の夢を応援してあげましょう。